

せきかわ林政かわら版

復興から災害に強い森づくりをめざして!

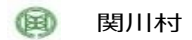
○ 「森林環境譲与税」について

森林環境譲与税は森林環境税の税収を地方公共団体に譲与するものとして、令和元(2019)年度から開始されています。

これにより、村では間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用の活用を行っていますので、その用途について下記により紹介します。

なお、令和6年度からは、「森林環境税」として国民から(国税)1人年額1,000円が賦課徴収されることから、その効果的な活用と用途の透明性が求められています。

村としては、これからの山づくりをみんなで考え、地域の環境づくりに取り組みますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。



森林環境譲与税

単位:千円

	R1	R2	R3	R4	R5 (見込)	R6 (見込)	R7 (見込)
譲与税	4,829	10,262	8,604	10,974	10,974	13,700	13,700
基金繰入額				3,620	7,000		
執行額	1,000	4,024	3,404	12,620	18,000		
基金積立額	3,829	6,238	5,200	0	0		
基金残額	3,829	10,067	15,268	13,622	6,596		

<R5年度主な事業予定> ※下記◎は新規事業

- ・森林集積整備計画作成 R4~ 500千円
- ・森林整備に係る既設道補強事業(補助金) R4~ 1,350千円
- ・森林環境復興対策事業 R4~ 6,000千円
- ◎林道一元管理委託事業 2,400千円
- ・林業人材育成事業(担い手育成講座) R4~ 500千円
- ・地域林政アドバイザー雇用 R4~ 3,000千円
- ◎「学びのもり」づくり整備事業 600千円
- ◎せきかわ産材利用促進事業(補助金) 1,000千円
- ◎村内エコシステム構築プロジェクト 500千円
- ◎「退耕還林」モデル構築プロジェクト 500千円



※写真
せきかわ山の担い
手育成講座
(伐倒実習)

※写真
オリパラレガシー材使用
加工品政策・設置
テーブル・ベンチ
(関川道の駅)



○ 森林の主伐・再造林について

戦後、植えられた山の資源が利用期を迎えています。

森林の樹木は、大気中の二酸化炭素を吸収し、炭素を貯蔵していますが、人工林の高齢化に伴い、森林吸収量は減少傾向で推移しています。このため、利用期を迎えた人工林について「伐って、使って、植えて、育てる」にとにより、炭素を貯蔵する利用拡大を図りつつ、成長の旺盛な若い森林を確実に造成して行く必要があります。

災害に強い森づくりをみんなで考えましょう!

循環型林業とは・・・

「伐って、使って、植える」という林業のサイクルを継続的に繰り返すことで、森林の適正な整備・保全や林業の成長産業化を図り、もって森林の有する多面的機能の持続的な発揮につなげるもの

せきかわの「地域内エコシステム」の構築



○ 関川村森林組合通常総会が開催されました。

5月30日に新型コロナウイルス感染対策の緩和から、通常総会が開催され 数年ぶりに加藤村長も来賓として祝辞を述べられました。

また、県村上地域振興局並びに新潟県森林組合連合会から出席の中、令和5年度業務報告並びに令和6年度事業計画等の上程により、参加組合員の全員の賛成により可決して総会を終えました。

森林組合には、いわゆる「意欲と能力のある林業経営者」として、森林の経営管理の集積・集約化の取組を担うとともに、木材の販売等の強化、さらにこれらに通じた山元への一層の利益還元を進め、村内の林業に参画する者全体の所得の増大を期待するものです。（組合員各位のご協力をお願いします）



(関川村村民会館)

○ 「関川産材（スギ）」の良さをPR

2020東京オリンピック・パラリンピックの選手村に使用した「関川産材」の製品部材の里帰りを受け、村では、「森林環境譲与税」の活用により新しい形で生まれ変わらせました。

スギ（集成材）の柱をテーブルとベンチに加工し、「道の駅関川」周辺での活用のため、設置して 木の良さを多くの方々に感じてもらえればと切に思います。

今後も、公共的な施設を中心に ベンチを設置して「木づかい運動」をすすめ、脱炭素化社会の実現に向け取り組みます。



【御礼】

「緑の募金」運動では、各世帯から募金いただき、264,000円の募金額をにいがた緑の百年物語緑化推進委員会に納めました。ご協力ありがとうございました。

(発行) 関川村農林課 農村整備班

内山・遠山
TEL:64-1447